

日本道徳教育方法学会第28回研究発表大会プログラム

期日 2022年6月5日(日)

オンライン開催 (ZoomによるWeb会議システムを用いた「同時双方向形式」)

オンラインの発信地 四天王寺大学

大会事務局 四天王寺大学 杉中康平 研究室内

主催 日本道徳教育方法学会

大会参加費 2,000円・・・会員、非会員ともWeb受付により徴収します。情報交換会費 無料

参加申込方法の詳細については日本道徳教育方法学会公式ホームページ「大会案内」をご覧ください。

タイムスケジュール

9:00 12:55 14:00 15:00 17:00 17:30
19:00

自由課題研究発表 分科会 I～V	昼 食	会員総会	シンポジウム	情報交換会
---------------------	--------	------	--------	-------

自由課題研究発表 (発表25分・質疑30分)

分科会 I 司会： 柴原 弘志 (京都産業大学)

9:00～9:55 ① 学校・教師・生徒が主体的になる道徳授業
～道徳推進教師が支援するべきこと～

増田 千晴 (愛知県犬山市立犬山中学校)

10:00～10:55 ② 児童の心を育てる校長講話の在り方
～「三方よし」という枠組みを通して～

松原 好広 (松本大学)

11:00～11:55 ③ OECD Education2030 とリフレクションと実践の検討
高口 涼 (静岡県富士市立広見小学校)

12:00～12:55 ④ 道徳科の指導力向上に向けたオンライン型現職研修の構想
—M-GTAを用いた研修内容の検討—

浅部 航太 (北海道立教育研究所)

分科会 II 司会： 澤田 浩一 (國學院大學)

9:00～9:55 ① 現代的な課題に向き合う道徳授業
～「SEED なやみのタネ」を活用して多様性に出会う学びを創る～

鈴木 賢一 (愛知県あま市立七宝小学校)

10:00～10:55 ② 発見・選択・相互承認のある道徳授業は子どもたちのラーニングコンパスと
なり得るか?

丸岡 慎弥 (立命館小学校)

11:00～11:55 ③ ホットシートで深める道徳科授業
佐々木 篤史 (弘前大学教育学部附属中学校)

12:00～12:55 ④ がん教育における道徳科の教材提案
—がん教育の目標と内容項目の検討を通して—

天野 幸輔 (名古屋学院大学)

分科会Ⅲ 司会： 毛内 嘉威（秋田公立美術大学）

9：00～9：55 ① 子どもが自ら道徳的価値と向き合うために
～「人間の魅力」から愛国心を考える・「美しい夢」「はしれさんりくてつどう」
の実践～

松原 弘（大阪府和泉市立郷荘中学校）

10：00～10：55 ② 道徳的価値観を問い、よりよい生き方を追求する道徳授業の考察
—道徳的な見方に着目して—

○中野 浩瑞（兵庫教育大学附属小学校）

清友 啓介（兵庫教育大学附属小学校）

末永 琢也（兵庫県三木市立広野小学校）

11：00～11：55 ③ “価値観”の創造を生む共同エージェンシー発揮

柴田 八重子（愛知淑徳大学【非】）

分科会Ⅳ 司会： 白木 みどり（金沢工業大学）

10：00～10：55 ① 歴史学習を生かした道徳科授業における偉人教材研究

塩家 崇生（兵庫県伊丹市立鴻池小学校）

11：00～11：55 ② 子どもが深く学んだと感じる教材に関する一考察

中山 真樹（大阪府高槻市立桃園小学校）

12：00～12：55 ③ 児童生徒が自分の考えを安心して表現することができる場にするために授業
者が大切にしたいこと

谷口 雄一（摂南大学）

分科会Ⅴ 司会： 大館 昭彦（流山市立北部中学校）

9：00～ 9：55 ① 道徳授業における話し合いについての一考察

—R.ローティの会話を手がかりとして—

竹本 晋也（兵庫県西脇市立西脇小学校）

10：00～10：55 ② 小・中・高の一貫した道徳教育のカリキュラム検討①

（市民性の育成をめざしたルソーとアーレントの考え方を参考に）

東風 安生（横浜商科大学）

11：00～11：55 ③ 道徳の複数性に関する一考察

上地 完治（琉球大学）

昼食 12時55分 ～ 14時00分

会員総会 14時00分 ～ 15時00分

シンポジウム 15時00分 ～ 17時00分

ユニバーサルデザインの視点を生かした道徳授業の現状と課題

企画趣旨

ユニバーサルデザイン（以下、UD）は、年齢や性別、国籍、障がいの有無などの条件によって対象を限定することなく、全ての人にとって使いやすく、理解しやすいデザインのことである。このようなUDの視点を生かした教育活動や授業づくりが、様々な学習領域で行われるようになって久しい。道徳教育の現場においても様々な授業実践の試みがなされている。

授業方法としてのUDが注目されるようになって以降、①児童生徒に確実な学習力をつけていく「焦点化」、②授業の流れを見える化して、全ての児童生徒を支援する「視覚化」、③個々の児童生徒の学びを広げ、全ての児童生徒の学びを「共有化」する等、三つの視点を重視する授業づくりが行われ、多様な授業方法論や授業技術の提案がなされてきた。

ただ、当初はUDの概念的曖昧さゆえに、UDによる授業は、あらゆる子どもの学習活動を包括可能にするとの誤解や、全ての児童生徒の学びを保障すべきであるとの意識が、教師の指導の平準化を生み出すことになった等の批判もなされてきた。

そのため近年では多様な児童生徒の価値観や異なる意見の違いを生かしながら、学び合いを通して学習の深化を図るUDの基本理念にあらためて立ち返って、新たな段階を目指したUDによる授業づくりの理論と実践に注目が集まりつつある。UDのこのような動向は、多様な価値観や意見の相違を認めながらも、自己の生き方、在り方の考えを深め、よりよく生きるための道徳性を育成する道徳授業実践と通底する面を有しているように思われる。

このような現状を踏まえ、本シンポジウムの主な目的を、UDの視点を生かした道徳授業の諸課題を論究することとした。さらにシンポジウムの議論が単なる授業デザインという狭い視点に留まらず、そのような視点から生かされる道徳教育の可能性についても若干の論究を行いたい。その際、単にUDによる道徳授業づくりの理論と実践だけではなく、特別の教育的支援を必要とする外国人児童生徒への道徳教育の方法や、特別支援教育からのアプローチ等、多面的・多角的な視野からシンポジウムを進めて行きたい。

シンポジウム 登壇者

UDの理論・実践的問題の視点から

坂本 哲彦（山口大学）

UDの考えを生かした小学校の道徳授業の視点から

加藤 英樹（名古屋市立南陵小学校）

UDの考えを生かした中学校の道徳授業の視点から

根本 忠春（柏市立田中中学校）

司 会

服部 敬一（大阪成蹊大学）

小川 哲哉（茨城大学）

情報交換会 17時30分 ～ 19時00分